



ピースデポ 平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人: 田巻一彦 / 住所: 〒 223-0062 横浜市港北区日吉本町 1-30-27-4 日吉グリーンビル1F
TEL: 045-563-5101 / FAX: 045-563-9907 / E-mail: office@peacedepot.org
郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

No.41

2017.12.15

2017年を振り返る

核兵器禁止条約成立、北朝鮮の核開発を前に 日本は核抑止政策から脱却を



北東アジア非核兵器地帯シンポジウム(2017年10月)。

湯浅一郎 (ピースデポ副代表)

北朝鮮の核・ミサイル開発の背景にある 冷戦構造を見据えよう

7月、国連において核兵器禁止条約が採択されました。2010年NPTを起点とした核兵器の非人道性インシヤチブの流れが形をなし、核兵器を禁止する国際的な規範ができたのです。広島に被爆者であるサーロー節子さんが、ICANのノーベル平和賞受賞演説で、「核兵器の開発は、国家の偉大さが高まることを表すものではなく、国家が暗黒の淵へと墮落することを表しています。核兵器は必要悪ではなく、絶対悪です」、「これ(条約成立)を核兵器の終わりの始まりにしようではありませんか」と呼びかけたことが、条約成立の意義を的確に表現しています。20世紀半ばに世界に登場した核エネルギーによる世界支配という手法は明らかに下り坂に向かっています。

他方、核兵器禁止条約ができる中で朝鮮民主主義人民共和国(DPRK、以下北朝鮮)が核実験・ミサイル発射をくり返し、北東アジアでは緊張が高まりました。この北朝鮮の核開発は決して許されるべきではありません。しかし、問題は、北朝鮮が何故、核・ミサイル開発に走るのかです。北朝鮮のミサイル発射・核実験は、ほとんどの場合、米韓が北朝鮮の政治体制を崩壊させる意図を有して定例的に行う米韓合同演習への対抗措置です。更に米韓は、サード(THAAD)の韓国配備、

横須賀の弾道ミサイル防衛能力艦の増強等ミサイル防衛(MD)体制を強化しています。この応酬は、毎年くり返され、ことさら新しい現象ではありません。ただ17年は、北朝鮮のミサイルの多様性、長射程化、更に核実験の規模拡大など技術の向上が見えた年でもありました。

この背景にあるのは、未だ朝鮮戦争が終わらず、冷戦が続いていることです。1950年に始まった朝鮮戦争は、1953年7月に停戦協定が締結されたままで、今なお準戦時状態が続いているのです。いつ戦争が再発し、つぶされるかもしれないという恐怖の中で、北朝鮮が核・ミサイル開発に走ったことは明白です。その結果、北東アジアは、「一方が自らの安全を確保しようと軍事的に行動すると、それが他者の安全を損なう結果をもたらす」という「軍事力による安全保障ジレンマ」という悪循環の泥沼に陥っているのです。

踏みだそう！ 包括的な平和の枠組み作りへ

この安全保障ジレンマから抜け出すために、今、北東アジアにおいて第1級の外交課題は、続く冷戦をいかに終わらせるかにあります。それには、全体の構図を解く多国間の協調による包括的な解決策を構想することが不可欠です。その際、必要なことは、軍事力に

よる安全保障ジレンマとは逆の道、つまり「一方の軍縮措置が、自らの、そして他者の安全を同時に高め、相互に安全を向上しあう正のサイクル」を描くことです。この正の循環を生み出す可能性のある要素をいくつかあげてみます。

- ① 北東アジア非核兵器地帯の設立
- ② 朝鮮戦争の早期終結。朝鮮戦争の停戦協定を平和条約に切り替えること
- ③ 地域的安全保障機構の創設

これらをセットにした包括的な構想とそれを推進する体制が必要です。それに関し17年、韓国に北朝鮮との対話を重視する文在寅(ムンジェイン)政権が登場したことは大きな希望です。文大統領は、7月5日、ベルリンでの演説で、朝鮮半島の非核化、朝鮮戦争の終結、離散家族対面、経済協力等を中身とした包括的な新朝鮮半島平和ビジョンを提案しました。日本の安倍政権は、「対話ではなく、圧力こそ必要」の一点張りで、このような視点がまったくありません。これでは安全保障ジレンマは悪化するだけです。日本は、2002年の日朝ピョンヤン宣言を守り、推進すべきです。

また2018年のどこかの時点で、地球上に約15,000

発もの核兵器が存在したままとはいえ、核兵器禁止条約は発効するでしょう。その時、存在自体が悪である核兵器に安全保障を依存するあり方への国際的批判が強まることは必至です。核兵器保有国、そして依存国の市民は、自らの生き方を問われることとなります。戦争被爆国を自認する日本は、拡大核抑止の政策から抜け出す以外に、進む方向はないはず。この構造を活かしながら北東アジアの安全保障の有り方を変えて行く仕事が私たちに求められています。日本においても北東アジア非核兵器地帯構想と朝鮮戦争を終結させることをセットにした包括的な平和の枠組み作りをめざすべきだとの世論を強めねばなりません。ピースデポは、その一翼を担っていく所存です。

軍事力によらず、安全、安心に暮らしていける人類社会の構築は未だ途上にあります。これを前進させるためには、その課題を生きるものの中心に据えて取り組みを進める次世代の人材を発掘し育てていかねばなりません。

最後になりますが、本年、様々な形でピースデポに関わり、支えていただいた皆さんに心から感謝申し上げます。そして来年もよろしくお願いいたします。P



核兵器禁止条約交渉会議に参加

(17年6月、国連ニューヨーク)

ピースデポは、事務局長の荒井とスタッフの山口が期間をずらして禁止条約交渉に参加しました。山口は会議の2日目の終わりに4名の被曝者からホワイト議長へヒバクシャ国際署名約300万人分を提出する感動的な場面に立ち会うことができました。荒井は3日目のNGOセッションで発言の機会を得、核の傘国が核依存政策を変更するよう促す条文を条約に入れる提案を行いました。



北東アジア非核兵器地帯シンポジウム「日、韓は核の傘から出て禁止条約に参加を！」

(17年10月28日、東京・明治学院大学)

ピースデポは明治学院大学国際平和研究所(PRIME)と世界宗教者平和会議(WCRP)の後援を受けて「ピースデポ20周年/梅林宏道『核のない未来賞』受賞記念シンポジウム」を開催しました。韓国の市民団体、日本の国会議員、日本の宗教者からの問題提起を受け、北東アジア地域の平和のために何ができるか、会場の参加者も加わって活発な議論を行ないました。

活 動

報 告

日本決議に関わる要請書を外務省に提出

(17年11月22日、外務省)

湯浅一郎ピースデポ副代表、梅林宏道同特別顧問が外務省を訪れ、軍縮不拡散・科学部の川崎方啓審議官と面談し、河野外務大臣宛ての「第72回国連総会における日本決議に関わる要請書」を手渡しました(「核兵器・核実験モニター」534号に全文)。今年の日本決議案は、重要なNPT合意事項をいくつかの点において恣意的に歪めている点を指摘し、日本政府が、核兵器禁止条約成立後の「橋を架ける役割」を果たすためにも、それらを修正すべきことを求めました。



イアブック「核軍縮・平和2015-17」—市民と自治体のために



特集 核兵器禁止条約の交渉へ

17年9月20日、核兵器禁止条約が署名開放され、50か国以上が署名し、18年には発効が見込まれる。唯一の戦争被爆国を自称しながら核の傘の下にある日本は、核兵器保有国とともに条約に署名しないという。政権は北朝鮮の「挑発」を国難と形容し、ひたすら圧力で対処しようとしている。

—「今」を読み解き「未来」を考えるためのキーワードと資料が満載！

10冊程度の預け売りや、お近くの図書館へのリクエストなどにもご協力を！

会員価格1700円／一般価格2000円(+送料)

編著：NPO法人ピースデポ／監修：梅林宏道

発行：緑風出版／A5判、360頁／2017年11月20日発行

- 41のキーワード：核軍縮/ミサイル防衛/米軍・自衛隊/自治体とNGO ほか
- 23のデータシート □ 54の一次資料

★ご注文はピースデポまで！★

翻訳ボランティアから

核兵器のない世界への思い

浅野 美帆

小学生の時、滅多に漫画を読ませてくれなかった母が、珍しく漫画を買ってきてくれたことがありました。喜んで読み始めた私は、その夜、直ぐには寝られませんでした。「はだしのゲン」の中の、元の顔が分からなくなるほどの火傷を負った人、手の皮膚が垂れ下がった人や無数のガラスの破片が突き刺さった人、遺体で埋まった川の絵の惨さもさることながら、一見無傷だった人たちも次々と亡くなってしまおうという放射能の恐ろしさが強く心に残りました。母がこんな目にあったらどうしようと心配になり、将来は核兵器のない世界の実現のために働きたいと思い、米国に留学もしたのですが、結局そういった仕事をすることもなく長い月日が経ってしまいました。

恐らく10年ほど前、新聞でピースデポという団体が米軍の航海日誌をもとに、海上自衛隊がテロ特措法に違反してイラク戦争に向かう米艦船に給油活動していたことを明らかにしたという記事を偶然目にし、分析能力の高い団体として印象に残っていました。数年前たまたま日吉から比較的近い場所に引っ越してきたのを機に、人生も後半に差しかかった今、何もしなければ後悔すると思い、ピースデポで翻訳ボランティアを始めることにしました。25年以上前に学生として通っていた日吉を再び訪れることに不思議な縁を感じながら、発送ボランティアにもたまに参加して人生の先輩方のお話に耳を傾けつつ作業しています。

これまでに6件の一次訳を担当しましたが、バイデン元副大統領がオバマ政権の退陣直前にカーネギー国際平和財団で行った演説が印象に残っています。例えば元副大統領は、核抑止力は米国の防衛の基礎であり、それが、同政権が保有核兵器維持と核関連施設近代化の予算を増額した理由だとしています。その一方で、冷戦時代のような核兵器増強のためにさらなる財源を使うことは、米国と同盟国の安全保障強化に役立たないし、米国は核兵器のない世界の平和と安全を追求し続けるべきだと信じていると述べています。ま



汐文社から使用許可を得ています。

た、核軍備競争を推奨する人びとが常にいたともっています。ロイターや全米科学者連盟(FAS)のサイトには、同政権が上院における新STARTの批准承認決議に必要な議員数確保のため、共和党議員の要求する核関連予算の増強に同意したという記事がありましたが、この演説の背景や元副大統領の心情が理解できるようになったら、核軍縮の問題への理解も深まる気がしました。

子供のころは核兵器がなくなればそれでいいと思っていましたが、そんなに単純ではないことが分かってきました。核兵器や戦争のない平和な世界の実現を望む一方、今日の世界において核兵器や軍事力に頼らず日本の安全が保てるのか、正直まだよくわかりません。ボランティアを機に、北東アジア非核兵器地帯構想について学ぶとともに、日本の安全保障についても考えてみたいです。とは言っても、1年以上ニミッツ級をミニッツ級と読み間違えていたり(Nimitzさん、すみませんでした)、つい最近になってイージス艦のイージスの意味を知ったという状態です。ピースデポでの活動を通じて核軍縮や安全保障に関する知識を深めたいと思っています。ご指導のほどよろしくお願いします。

最後になりましたが、お隣の愛知県とともに喫茶店のモーニングが有名な(?)岐阜県南部出身の45歳です。趣味は、お散歩、東アジアの文化および日本語との関連について知りたくて始めた中国語と韓国語の勉強、「四季」の中の速いパッセージに一種の狂気を感じて10年ほど前に趣味で始めたヴァイオリンなどです。ここまで読んでいただきありがとうございます。皆様、どうぞよい年末年始をお迎えください。☐